

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
医事コンピュータⅣ Computer Medical III		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(電子カルテ検定対策講座)	医事コンピュータⅠ・Ⅱ・Ⅲ履修者のみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
医学一般の科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
医事コンピュータⅠ・Ⅱ 医療秘書				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
古川貴子 小林大輔	本館2階	火・水・木・金の9時から16時まで (授業を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
医療業界は日進月歩であり、臨床も複雑化してきている。その中で病院業務もIT化により多様な医療事務の知識や実務が求められる。演習問題を中心に、現場で求められている医事課の仕事を理解し、日々変化する現場状況を踏まえながら学習を図る。				
授業の目標				
①ICDとDPCの関係を理解できるようにする。 ②DPC算定方法を理解できるようにする。 ③初級がん登録の理解ができるようにする。 ④DPC学内認定に合格できるようにする。				
授業の方法				
補足資料を配布し、少しでも多くの演習問題を解くことにより、DPC算定の計算方法を理解する。初級がん登録の基礎学習を図る。				
学習の成果(学習成果)				
①ICDとDPCの関係を説明できる。 ②DPC算定、初級がん登録業務ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・DPCとは(古川)			
第2回目	DPCとIDCコーディングの繋がり(古川)			
第3回目	DPC対象病院・対象患者(古川)			
第4回目	包括評価の対象と出来高払いによるもの(古川)			
第5回目	診断群分類コード14桁の構成・入院期間別点数(古川)			
第6回目	主要診断群(MDC)・請求パターン(古川)			

第7回目	厚生労働省病院調査について(DPC対象病院および準備病院)(古川)	
第8回目	包括評価部分の算定①(古川)	
第9回目	包括評価部分の算定②(古川)	
第10回目	DPC請求NAVIによる実践症例演習Ⅰ(古川)	
第11回目	DPC請求NAVIによる実践症例演習Ⅱ(古川)	
第12回目	DPC請求NAVIによる実践症例演習Ⅲ(小林)	
第13回目	DPC請求NAVIによる実践症例演習Ⅳ(小林)	
第14回目	院内がん登録・地域がん登録について(古川)	
第15回目	臓器がん登録および活用法(古川)	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
	評価の基準	
授業参加態度	20%	分からないところがあれば積極的に質問している。
レポート	20%	出された課題の提出期限を守っている。講義内容をふまえて、課題を理解し、適切な論理展開となっている。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	学期末試験を実施し、授業の到達目標に掲げた項目の理解度に応じて評価する。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
DPC請求NAVI(ケアアンドコミュニケーション)		
履修上の留意点・ルール		
授業を集中し、DPC請求をよく理解する。PC操作で分からないところは必ず質問すること。学内DPC検定を受験する場合は必ず履修すること。		